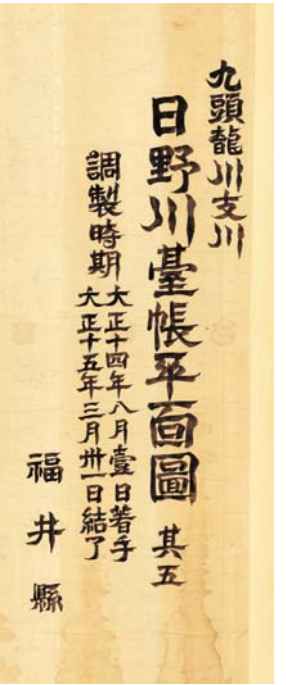
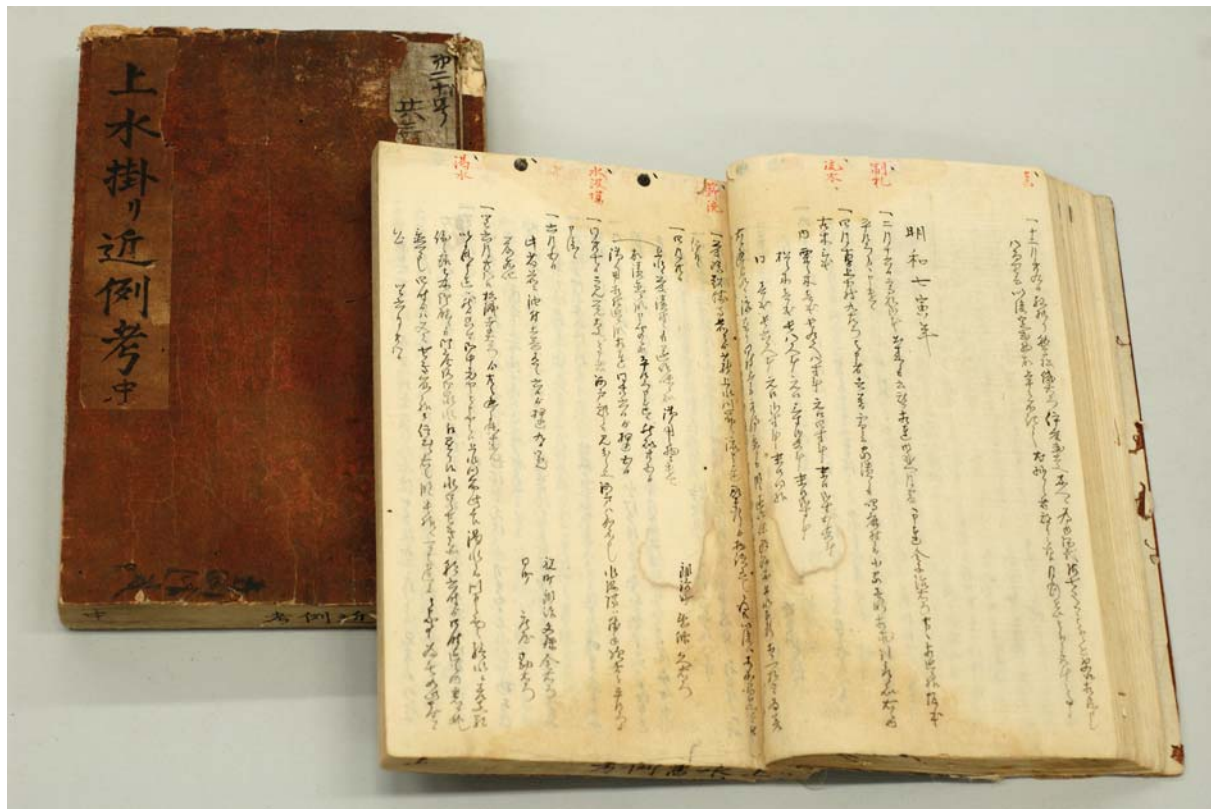


九頭竜川支川日野川台帳平面図 其五 部分 1926年(大正15) 福井県文書館蔵



日野川台帳平面図

九頭竜川の第二期改修工事は、日野川、浅水川、鞍谷川などの支流を対象に一九一〇年(明治四三)に着工し、二四年(大正一三)に完成した。この平面図はこの翌年度に作成した河川台帳の付図である。



上水掛り旧例考 上、上水掛り近例考 中 松平文庫 松平宗紀氏所蔵 福井県立図書館保管

福井藩上水掛り目付の記録

上質な地下水に恵まれなかった福井城下の飲用水は、九頭竜川中流(柴原郷)から引水して中世以来一帯の田地をうるおしていた芝原用水にたよるざるをえなかった。

芝原上水の水質・水量は、軍事上また民政上も重要であったため、福井藩では上水奉行や目付上水掛りを設けて厳しく管理していた。また、上水の上部と城下下流では農業用水として利用されていたため、上水の維持管理のためには周辺の村々との調整を不可欠としていた。

資料は、福井藩上水掛り目付浅井政昭(一八一三―一四九)がそれまでの上水奉行や目付が残した留書、書付類をもとに一六七五年(延宝三)から約二〇〇年間の業務上の先例を書き記したものである。各々の記事には「法(法度)」「渴水」など朱筆で頭書がつけられ、法令違反、処罰に関連した事例には●が付されている。